

1 はじめに

本校は、「持続可能な故郷（日立・助川）の未来を担う頼もしい児童の育成」という教育目標のもと、児童主体の特別活動に取り組んでいる。自主的・実践的な態度を育てていけるよう、様々な取り組みを行った。以下は、本校の取組について紹介する。

2 資料

(1) 人権意識を高めるための「いじめノックアウト集会」の実施

ア 各クラスでのスローガンの作成

安心して学べる環境を作るために、学級活動で事例をもとに児童がいじめについて考え、各クラスでいじめを未然に防ぐためのスローガンを作成した。互いの意見を尊重しながら意欲的に話し合うことができた。

イ 実際の場面を想定した対処法の検討

実際の場面での対応力の向上や、いじめの被害者や加害者の気持ちを想像しやすくするために、運営委員会が作成した動画をもとに対処法について話し合う時間を設けた。どの学年も意欲的に話し合うことができた。

(2) 異学年や地域交流の機会の確保

ア あおぞら活動

本校には、居住している地域ごとに1年生から6年生までをグループに分けた縦割り班がある。6年生の班長・副班長を中心に活動内容を計画している。児童は普段とは異なるメンバーと遊ぶことを毎回楽しみにしている。また、6年生を中心に下級生に声をかけたり、話合いを行ったりと、課された責任を果たそうと意欲的に取り組んでいる。

イ 異学年交流会

学校全体の雰囲気向上のため、運営委員会の児童が企画し、実施した。全校を2チームに分け、じゃんけんピラミッドを行った。参加した児童からは、「またやりたい。」との声が多く聞かれた。

ウ 学校子ども会

あおぞら班活動と同様の班に分かれ、地域の方が数名ずつ加わり、昔遊びやいすとりゲームなど室内遊びを行っている。また、地域の方々から、昔の学校の様子を教えてもらったり、昔遊びのお手本を見せてもらったりする中で、地域とのつながりが深まっている。



3 成果と課題

児童主体となって企画・運営を行う場を設定したことで、児童は自主的に活動することができた。5・6年生でアイデアを出しながら、委員会活動を行い、準備も協力して行っており、主体的・実践的な態度が育った。来年度に向けて、地域との関わりをさらに深めるための活動を積極的に推進していきたい。地域社会との連携を強化し、より豊かな学びの場を提供できるよう努めたい。